エネルギーという枠組みにおける原子力の認知
（1）将来のエネルギーを考えるワークショップの実施

Perception of Nuclear Power in Terms of the Energy Choice

(1) Practice of Workshops about the Energy Choice

*木村　浩[1]，竹中　一真[1]，神崎　典子[1]

[1]NPO 法人パブリック・アウトリーチ

本研究では、将来のエネルギー選択という文脈の議論において、人々に原子力がどのように認識されていくのかを分析する。シリーズ発表の頭となる本稿では、その分析対象となる将来のエネルギーを考えるワークショップについて、実施状況を説明する。

キーワード：エネルギー選択，原子力認知，ワークショップ

1. 緒言

原子力は数多くあるエネルギー源のうちのひとつであり、パブリックで話される場合でも、本来であればその背景となるエネルギー全般の議論を欠かすことは出来ない。しかし、従来の原子力に関するコミュニケーションでは、原子力そのものに焦点を当てたものが多く見られ、その背景となる広がりのある議論は避けることが多い。そこで、本研究では、将来のエネルギー選択という文脈の議論において、人々に原子力がどのように認識されていくのかを分析する。本稿では、その分析対象となる将来のエネルギーを考えるワークショップについて、実施状況を説明する。

2. エネルギーの将来を考えるワークショップの設計と実施

ワークショップは、エネルギーの将来を担う世代である「学生」を対象として、エネルギーに関する知識を獲得し、各自の意見を明確化したうえで、各自の価値観の相違を尊重しながら、参加者間の「合意」を目指して話し合うことを目的としている。そして、2016 年 9 月～2017 年 1 月に、全 7 回のワークショップを実施した。ワークショップには、都内大学生（大学院生も含む）７名が繰り返し参加した。7 回のワークショップの内容は表 1 の通りである。第 1 回は導入、第 2～5 回は参加者の 3E+S に関する知識獲得、第 6～7 回はエネルギーの将来についての議論を実施するような設計となっている。

表１　各ワークショップの実施内容

第１回	ワークショップ「エネルギーの将来について考えるには」	2016/8/16
第２回	講義１「電源別発電コスト評価の概要と主要な論点」	2016/9/19
第３回	講義２「エネルギー問題」	2016/10/17
第４回	講義３「原子力の安全性について」	2016/10/31
第５回	講義４「環境適合性について」	2016/11/28
第６回	ワークショップ「エネルギーの将来はどうあるべきか」	2016/12/12
第７回	ワークショップ「エネルギーの将来はどうあるべきか（２）」	2017/1/14

なお、本取り組みは「『エネルギーの将来について、確たる知識に基づき、価値観を越えて合意をつくる』プロジェクト」として、経済産業省資源エネルギー庁の支援を受けて実施された（事務局：(一財）日本立地センター)。また、ワークショップに関するすべての記録は、「エネルギーの将来について、確たる知識に基づき、価値観を越えて合意をつくる」プロジェクトホームページ（http://ponpo.jp/2016WS/）に公開されている。

---

*Hiroshi KIMURA[1], Isshin TAKENAKAi[1] and Noriko KANZAKI[1]

[1]Public Outreach, Non-profit.